

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう

目次

申し訳ありません

いつも「風の子便り」をみて頂きありがとうございます。前月号に引き続き、活動自粛の要請が出たために編集部員が足りず、今月号も出せない記事があります。来ているメンバー、自粛中のメンバー全員で頑張っって今、出せる記事を書いています。申し訳ありませんが、読者の皆様、今しばらくお待ちください。

企画一同

☆まだまだ自粛中	2
☆メンバーのつぶやき	3・4・5・6
☆運営委員会報告	7
☆賛助会募集	8
☆懐かしの写真アルバム	9
☆バリアフリーよもやま話（岡本連載） 第94回「チャップリン」	10・11
☆所長のつぶやき	12
☆寄付のお礼	12



徐々にメンバーも戻ってきました。が、まだまださみしい実習所です。（6月3日の実習所の様子）

2020年 5月号

活動報告

- ① 風の子会は5月の27日(水)から活動を再開しました。
- ② 朝の送迎が10時に変更になりました。
- ③ 帰りの送迎は3時に短縮になりました。
- ④ 徐々に曜日によっては違いますけどメンバーがきはじめています。
- ⑤ コロナウイルス関係でメンバー同士と職員の距離を2メートル明けて食事を行っています。
- ⑥ 普段の日は職員さんはメンバーさんのとなりで食事介助をしています。今新型コロナウイルス関係で食事介助が終わった後に職員さんがお昼ご飯を食べることになりました。
- ⑦ 朝の送迎時は必ずメンバー全員が体温計を測ることになりました。

メンバー 島田龍司



距離をあげながらお昼ご飯を
食べているようすです。



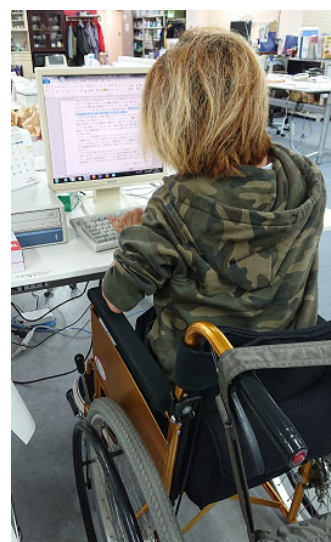
メンバーのつぶやき（コロナウイルスの日常）

今回は自粛中のメンバー、また通所しているメンバーから自粛中の生活を書いてもらいました。

コロナと自粛と僕とあれこれ（5月13日記）

2020年初め、中国に端を発した新型コロナウイルスがこれほどまでに世界中に蔓延するといった誰が想像しただろうか。世界で感染者数が390万人を超え、27万人が死に至り（5月9日現在）、未だ収束のめどは立っていない。日本でも3月頃から感染者が増え始め、4月7日に緊急事態宣言が発出され、5月末まで自粛状態が続いている。

風の子会も区からの要請を受け、4月13日から自粛体制に入った。ほとんどのメンバーが風の子を休み、一部の職員が休業となっている。感染しない、させないための最大限の防衛策をとりながら、ひっそりと活動している。自粛しているメンバーに申し訳なさを感じながら僕は通所を続け、ひたすらにパソコンの画面に向かって（写真右のように・・・）。



日常では外出を極力避けて部屋に籠もるようにしている。つまらないテレビばかり観ていると頭がおかしくなってきたし、だからといって運動が苦手な僕には体操という行為は無意味な反復動作にしか思えなくてやる気にならないし、たまに気晴らしにと外に出てみると、普段の新橋とまるで違う静寂な雰囲気、外出に罪悪感を感じてしまっただけで部屋に戻ってきてしまうという始末である。

サラリーマンの街新橋から人気（ひとけ）がなくなってしまうというのは異様である。うらぶれた歓楽街のようであり、道のあちこちでゴミを漁ったカラスがまき散らしたゴミがおぞましい様相を呈している。休業要請で休んでいる居酒屋や飲食店が多く、再開を諦めて閉めてしまった店があちこちに散見している。

ウイルスを全て根絶するには全ての人が1ヶ月くらい家に籠もっているのが一番手っ取り早い。けれどもそれをしてしまうと資本主義経済社会が崩壊してしまう。社会を一定程度維持させつつウイルス根絶を目指すのであれば、相應の時間がかかってしまうのだろう。ワクチンの早期完成を願うばかりである。

メンバー 小野塚 航

メンバーのつぶやき

自己管理

自粛中は何やってよいかわからず、ただ太りすぎに注意して食事制限しています。朝食の面では自分なりに楽しんでます。朝食はパン二枚でバターなどつけず野菜などをたくさんつけて自分なりにアレンジして楽しんでいます。

運動では太りすぎに注意することに気をつけ家の階段の上り下りをしています。上りは比較的楽なのですが下りは手すりがなく壁をつたっていかなければならないので大変苦労しています。

休日の日は家の周りを散歩しつつ喫茶店に入り自分へのご褒美としてケーキセットを注文します。



今回の記事のチェックをしている掛橋さん
(5月15日、撮影)

メンバー 掛橋達也

私の自粛生活

新型コロナウイルスが昨年末から危惧され今年に入り、日本国内でも拡がりはじめ4月7日に緊急事態宣言が発出されたので私も自粛生活に入りました。生活スタイルは、午前中は足腰の筋トレしながら音楽・動画を観たりして過ごして午後は、コロナの情報番組を観てコロナの注意点・感染者の変動に耳を傾けています。

家での食事に関しては、ソーシャル・ディスタンスを保っていました。

唯一困ったことといえば、コミュニケーション不足に陥ってるので認知症になりかけたことですが職員が定期的に電話してきてくれたのでまぬがれました。



久しぶりの通所、三木さん
(6月3日、撮影)

メンバー 三木 直人

自粛生活の感想？

家でいつもはできないことは、絵を書きました。ずっと家にいました。一ヶ月ぶりに（5/18）にえみふるに行きました。久しぶりの外で疲れちゃいました。

嫌だなあとことは、外に行けなかった事と、お出かけも行けなくて嫌だなあとおもいました。

楽しかったことは、風の子に行

けなかったけど、風の子の職員さんが毎回連絡をくれて話したことが楽しかったです。家でいつもだと見れないドラマをゆっくり見れたことが楽しかったです。



廣瀬さんが自粛中に書いた絵

メンバー 廣瀬依生

皆さん、こんにちは、風の子会メンバーの柳川敬事です。風の子会がお休み中はマンガとテレビを楽しんでいます。マンガはつまみ道場とワカコ酒を読んでいます。マンガの漢字を読んでいます。それから、料理のメニューを考えてます。実は兄が料理を作ります。うまかったのはクリームシチューライスとうどんです。

メンバー 柳川敬事

赤い羽根共同募金活動中の柳川さん
2019年10月1日、撮影



自粛の状況

自粛期間中は僕はいろんなことにちょうせんをしました。

①「僕は初めて家族4人分の夕飯を僕が

よそいました。☺

②バランスボールに足を載せて腰を動かす練習をしているようすです。

③洗濯物を干す手伝いもしました。

④毎日腹筋を30回ぐらいしていました。

どうい生活をしていたか言うと

①僕は家から虎ノ門まで僕と兄の2人で歩いて行きました。1時間ぐらいかけて行きました。

②休みの間は家族4人でドラマ

を見ていました。☺

見ているドラマは中村智也主演の「美食探偵明智五郎」です。明智さんの役を中村智也が演じてます。小芝風花の役は小林イチゴ役を演じてます。マグダラのマリアを小池栄子が演じています。

マグダラのマリアの仲間を演じ

ているのは武田真治と志田未来が演じてます。他にも仲里依紗の役は桐谷みどりとか冷蔵庫の役です。

他にも「野ブタ。をプロデュース」も見っていました。主人公を演じてるのは桐谷修二を亀梨和也が演じてます。後草野彰を演じてるのは山下智久が演じてます。ダブル出演です。

休みが長くて困った事はあります。やっぱり風の子会の皆さんに会えないのがとても

悲しかったです。☹

自分は家族4人の夕飯をよそっているようすです。



僕はソファーに横になりながら腰を動かす練習をしています。

メンバー 島田龍司



～ 運営委員会より ～

運営委員会とは、会長に選任された運営委員で構成され、会の運営に関することを話し合っ
て決める機関です。運営委員にはメンバーも職員もボランティアも含まれていて、月
に1度集まって様々なことを話し合っています。

2020年5月13日の運営委員会内容

・ 移転問題報告

→立ち退きと移転先についての報告と対応策が提案された。

・ 新型コロナウイルス対応

→緊急事態宣言の延長を受けて自粛の期間を延長することにした。

また、自粛中のメンバーの様子について、報告があった。

・ 総会の日程と準備について

→6月20日に開催。電話等での「遠隔地参加」を実出席とみなし、総会議案の採択を行うこととした。

→議長、議事録署名人を選出した。

・ 男子常勤職員募集状況について

→応募が1名来た。今後は3日程度の実習を行なう。

・ 防災備蓄品について

→コロナ対策でマスクと消毒液を購入しているが、震災時にも必要なので、新たに購入を検討していく。

これらについて話し合いました。

文責 運営委員・岡本裕介



賛助会更新・加入、寄付のお願い

令和2年度の賛助会の更新・加入をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染の危機にさらされる中、風の子会もその対策におおわらわです。

そして、入居中の日清紡芝浦日新ビルの退去明渡し再移転という最大の困難に直面しています。唯一協力的な移転先物件を現在検討中ですが、障害者施設基準による障害者用トイレ等の新設、通路のバリアフリー設備、障害者施設への用途変更による消防設備増新設、防火区画設備工事等と改修費はかさみ、引越し、不動産仲介手数料、敷金償却など、移転に係る経費は最悪2800万円を超えます。港区から改修経費等の補助をいただけそうですが、1600万円を超える金額は風の子で負担しなければならず、普段でも財政に余裕はない中で、その負担をどのようにみんなで分かち合うか悩みます。

4台の車いす使用者の送迎車両のうち2台はすでに登録14年、10年を超過しています。その買い替えは平成29年の高浜退去の際に先延ばししていましたが、この再移転のためますます困難さを増してしまいました。

青春(?)の熱き血を捧げてくれている職員の待遇改善と退職金積み立てによる老後対策の充実は、発足以来40数年の見果てぬ夢です。

しかし、どのような困難があっても、石にかじりついても実習所を守り続けなければなりません。私たちは、障害者とその家族の頑張りを尊敬し、支援したいからこの会をつくったのです。そして、どんなに障害が重くても、どんなに困難があっても、諦めずに少しずつでもより豊かな生活を目指して生き続けている障害者や家族から、いまでも、元気ももらっています。だからこれからもずっと頑張れます。

皆様には、どうか、このような風の子会を大いに力強く、しかし無理せず、息長く支援して下さるようお願いいたします。

賛助会更新、新規加入あるいはご寄付いただける方は、同封の郵便振替用紙を使用して、賛助会費（寄付金）を送金ください。なお、賛助会は一口3000円で何口でも結構です。

寄付金領収書を発行いたします。

令和2年6月

特定非営利活動法人 風の子会
理事長 田中 あけみ

風の子会は、認定特定非営利活動法人の認証を受けています。ですから、当会へのご寄付や賛助会費の金員には、寄付金領収書を発行いたします。この領収書で所得税、法人税の控除が適用になります。港区内、都内などご住所によってはふるさと納税の適用を受けることもできます。



なつかしのアルバム



本当なら今頃行ってたんですよねえ・・・コロナ
憎し！ですねえ・・・来年は絶対行きたいですね
え・・・

（写真は2012年の外に出ようです）

担当・メンバー 小野塚



バリアフリー よもやま話

第94回 「チャップリン」 風の子会ボランティア・運営委員 岡本 明

チャーリー・チャップリン（1889 - 1977）。世界の喜劇王と言われた俳優であり、脚本家、映画監督、映画プロデューサー、作曲家です。といっても彼の映画を観たことのある方はもう少ないかも知れません。私もずっと昔に観た記憶があるだけだったのですが、このところテレビでいくつか放映され、懐かしく観ています。



チャップリンの映画には社会的に恵まれない人や障害のある人が多く出てきます。たとえば、『キッド』（1921）は捨て子と実母との再会までの奇跡、『街の灯』（1931）は街角で出会った盲目の花売り娘を愛した浮浪者、『モダン・タイムス』（1936）は機械のように働かされる下級労働者、『ライムライト』（1952）は足が不自由になったバレリーナと再起をめざす落ちぶれ老芸人、などです。チャップリン自身も、山高帽に窮屈な上着、だぶだぶのズボンにドタ靴、ステッキという扮装、ちょび髭、ガニ股歩きで、浮浪者や貧乏職人などを演じていつも出ています。これらにはドタバタ喜劇の笑いとユーモアとともに、鋭い社会諷刺、庶民の悲しみ、涙、怒りが描きだされているのです。

『モダン・タイムス』には手を使わないで仕事をしながらも食べられる「食べさせマシン」が出てきます。工場で昼食時間も働かせるため

す。フォークで食べ物を口に運び、スープは皿を持ち上げて飲ませる、ときどきナプキンで口を拭くという機械です。これは連載第45回（2015年11月号）で紹介した、セコムの食事支援ロボット「マイスプーン」そのものです。映画では大失敗で、チャップリンの顔が食べ物だらけになりますが、80年も前に同じアイデアが出ていたなんて！ チャップリンはすごいですね。

チャップリンはイギリス生まれ。1歳のときに両親が離婚し、母親だけのチャップリン家は貧窮生活に陥りました。やがて母親は精神に異常をきたして施設に収容され、最後には息子のことも分からなくなったということです。チャップリンはいくつかの貧民院や孤児学校を渡り歩き、床屋、印刷工、ガラス職人、新聞売り子など職を転々とし、ときにはコソ泥までやったとか。その傍ら俳優斡旋所に通い、やがて認められてアメリカの映画会社に入りました。そして映画デビューして大成功、喜劇王までに登りつめたのです。このような若いころの境遇が、社会的に恵まれない人や障害のある人に優しい映画を作る基になっていたのでしょうか。チャップリンは日本に何回も訪れ、日本びいきだったようです。映画の中で使用したステッキも、滋賀県草津市の特産品のしなりが強い寒竹製で、日本の職人が作ったものだという事です。



所長のため息

5月26日（火）に緊急事態宣言が解除されました。解除を受けて、風の子会では27日（水）から通常の活動を行うことになりました。ただ、コロナウイルスが完全に終息していないので、しばらくの間は、感染予防のために朝を1時間、帰りを1時間と計2時間短縮して活動することにしました。

1ヶ月以上ぶりに会うみんなは、以前と変わらず、とても元気でほっとしました。しかし、不安もいっぱいだったとみんな言っていました。そこで今月号には自粛生活をしていたメンバーの自粛生活中的の話を載せています。そこに書かれているのは、新しいことに挑戦したメンバー、運動不足解消のために散歩をしていたメンバーなど工夫を重ねてこの自粛期間を乗り切った、すごい話ばかりです。

今後のことは、まだまだどうなるか分かりません。しかし、これからもコロナ対策をしっかりと行い、また楽しい風の子会を作っていけるようにみんなと一致団結してやっていこうと思います。



寄付・物品寄付のお礼

ご寄付・物品寄付ありがとうございます。（4月15日～5月30日）

匿名様

ひとりぼっちの障害者をなくそう

特定非営利活動法人・風の子会 ～定価40円～

企画編集メンバー

太田 圭子	信高 正義
太田 稔	松本 恵司
小野塚 航	三木 直人
島田 龍司	柳川 敬事
田中 聡	幸 高史
塚田 愛基	和栗頭太郎

編集人：【高浜生活実習所】生活介護、就労継続支援B型

〒108-0022

東京都港区海岸3-3-18 芝浦日新ビル5階

TEL 03(6809)4001

FAX 03(6809)4002

ホームページ：<http://www.kazenokokai.or.jp/>

e-mail：kazenoko@kazenokokai.or.jp

発行人：障害者団体定期刊行物協会

東京都世田谷区砧6-26-21